

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

南先生【道徳】 副島先生【国語】 中根先生【体育】
下野先生【国語】 宮先生【学活】の授業研から

11月4日は南先生、副島先生、6日は中根先生、18日は下野先生、宮先生(中堅教諭研修兼)が授業研を行いました。

今回もそうですが、次の3つの共通したよさがどの授業でも徹底されるようになりました。

① 「与えられる学習」ではなく、「子どもが考えたい、やってみたい」と思える学習

南先生の道徳の学習では、「きまりやルール」についての子ども達の意識から、副島先生の国語の学習では「自動車あてクイズをつくろう」という楽しい目的から、中根先生の体育では、「チームでよりたくさんの点数をとるためには」という課題から、下野先生は「登場人物の心情の変化に目を向けた子ども達の疑問」から、宮先生は「学級目標を達成したいという子ども達の思い」から学習を組み立てていました。

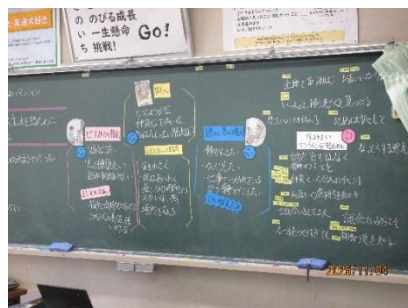
② 子ども達の考えや意見、活動を学習の中心に据えた学習。(教えられる学習から自ら学ぶ学習へ)

③ 教師と児童、児童同士の温かい関係に支えられた学習。

以上の授業づくりの根幹は、本校で1年間授業改善に取り組んで生まれた大きな財産です。日頃の授業の充実につながる授業が展開されています。



教師の評価が子どもの自信につながっています



子どもの考えで板書が構成されています



魅力的な目標が子どもを学習に向かわせます



対話が生まれる学習の仕組み



協働的な思考を生み出す学習の仕組み



温かい人間関係の実感



学習に向かう姿勢は
明確なめあてに支えられています



子どもの考えを大切にした授業展開



ICTの活用が子ども達の
発信力につながっています